

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

私の社会福祉援助技術実習

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 **今井 ゆか**

はじめに

私は、今年の3月に社会福祉士国家試験に合格し、通信教育部社会福祉学科を卒業しました。レポート作成やスクーリング受講では毎回新たな発見や気づきがあり、素晴らしい学びの時間を過ごすことができました。中でも社会福祉援助技術実習は、講義やテキストで学んだ社会福祉援助の価値、知識、技術に関する理論を、実習体験を通じて統合していく場として特に思い出深いものになりました。利用者さんとの関わりを通じ、人間は、ただ呼吸をして、命があるというだけの存在ではなく、喜怒哀楽、快・不快といった感情を持ち、家族、友人、地域の人々との関係の中で生活している大切な存在だということに改めて気づき、実感となっていった感動は忘れることができません。

社会福祉援助技術実習

私は、新生児集中治療室（NICU）の看護師をしています。卒業後は、医療をもって退院する子ども達の在宅移行支援を本格的に行いたいと考え、実習先は行政や児童分野を希望していました。しかし、実習先が決まるまで紆余曲折があり、最終的に障がい者生活介護施設に決定しました。当初の希望と全く違う分野だということで戸惑いもありましたが、障がい者・児が地域生活を継続するために必要な支援とは何かを学ぼうと考え、実習計画書を作成しました。

私はこの段階で、障がい者生活介護施設がどんな所なのか全く知りませ

んでした。従って、実習計画書を具体的に書くことが難しく、事前オリエンテーションでは実習担当者に「教科書に書いてあるような内容ですね」と言われた程でした。同時に「初めは分からなくて当然です。実習はそのためにあるのですから」とも言っていただきました。そこで実習担当者と、実習を通じて生活介護施設と利用者さんについて知り、より具体的な課題の発見と実践に繋げていけるような実習にしていくことを確認しました。

実習では、毎朝、一日の目標と大まかな行動計画をグループ内で発表させていただきました。その日の状況に応じ、計画や実施内容を適宜修正・変更しながら実習できるよう、配属グループの職員の方々には様々な配慮をしていただいたと思います。実習が進んでくると、知りたいことや実施したいことが増えていきます。やりたいことだけをやる実習にならないよう、進捗状況を踏まえ、実習計画書の具体的達成課題で未達成の課題が達成できるよう日々の目標を設定しました。具体的には、実習日数、実習日、予定・実施、目標等が書き込める『実習予定表／目標』を自分で作成し、次のように行いました。

- ①グループ活動・施設の行事等、予定が分かったらその都度書き込む。
- ②毎日、自分で設定した目標を書き込む。予め、予定が分かっている時は、予定に合わせた目標を事前に立てておく。
- ③実習後、目標達成なら実習計画書の具体的達成課題の番号を書き込む。同時に、実習計画書にも達成した課題が一目で分かるようマーカーで色を付ける。
- ④一週間単位で『実習予定表／目標』と実習計画書から未達成課題を明確にし、次週の目標に組み込んでいく。また、必要に応じて実習担当者と実習内容について調整を行う。

この方法で、常に具体的達成課題を意識した目標を、可能な限り適切なタイミングで設定するよう調整しました。また、実習指導者に実習の進捗

状況を説明したり、未達成課題への取り組みを相談する際、この『実習予定表／目標』は大変役に立ちました。

実習中、何度も思い出したのは、社会福祉援助技術論で川口正義先生が言われた「人は見ようとしたものしか見えない」という言葉です。実習を充実したものにするには明確な目標が不可欠です。目標があいまいだと、一日が何となく終わってしまいます。そんな日は、当然実習記録の作成にも時間がかかりました。逆に、充実していた時は、必ず1時間以内に書き上げることができました。私の場合、実習記録をその日のうちに提出しなければならなかったのが、実習目標と具体的方法を毎日必死で考えました。

私が実習で実践して良かったと感じた方法をご紹介します。皆さんが実習を進める上で、少しでも参考になれば幸いです。

国家試験対策

私が本格的に勉強を始めたのは、実習が終了した11月中旬からです。勉強は過去3年分の問題を繰り返して解きました。その際、法律や分からない専門用語については参考書で確認しながら解説を熟読し、全ての選択肢を正しい文章に言い換えながら進めていきました。初めは時間がかかりますが、これをしっかり行ったおかげで理解が深まり、後の学習の進みが格段に良くなったと感じています。

時間が無く困難な状況の中、常にモチベーションの源となったのは実習での感動でした。不安な時や苦しい時、お世話になった利用者さんや施設職員の方々の顔を思い浮かべて力に換えました。

最後に

3年間の学生生活を無事終えることができ、今、私は達成感で一杯です。レポートやスクーリング、実習指導等でご指導くださった先生方、様々な場面で支援してくださった職員の皆様、励まし合って共に頑張った仲間達、いつも応援してくれた家族等、学生生活を支えてくれた全ての皆様に、この紙面をお借りして感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートよりスクーリングの講義の感想を抜粋いたしました。

●高齢者福祉論

- ・介護保険制度が改正される中で、これまで理念にあったものも変更されていく、ということに非常に興味を持ちました。特に、「介護の普遍化」については今後も議論していかなければならない重要なものであると感じます。今後さらに増え続ける高齢者・高齢化の中で、現状を早期かつ的確に判断して行動していける福祉従事者（プロ）が必要になっていると感じました。
- ・社会参加と生きがいを持ち、高齢者になっても生活の質を落とさないでいること、ソーシャルサポートを受けられる環境を保つことは、考えてみれば、若い時からの生き様の反映であるようにも感じました。
- ・自分が寝たきりや認知症になった場合のことを今まで考えていなかった。今後の人生設計に加えていきたいと思う。

●福祉法学

- ・今まで業務の中で成年後見制度についての研修に参加したり、リーガルサポートセンターのパンフレットを見たりしても、制度の内容の説明はあっても、後見される側については触れられず、よくわかりませんでした。今回講義を受講し、制度の仕組みをよく理解できるようになり、より身近な制度として感じることができるようになったと思います。
- ・成年後見制度の中で、特に市民後見人についての関心が高まった。行政側としても、一般的にもっと認識されるように啓蒙しても良いのではないかと感じる。

●更生保護制度論

- ・高齢者の犯罪・累犯障害者について学ぶことができ、意義深かった。近年司法と社会福祉に関わる動きが目立っているが、司法と福祉の本質や考え方の違いについてどのように折り合いをつけ、乗り越えていったらいいのか、今後も自分なりに考え続けていきたい。
- ・更生保護について、現状と課題が時代に合わせ、常に変化していることを改めて知る機会となりました。

●保健医療サービス論

- ・MSWとしてナラティブを書き換えていくことの責任の大きさ、重要性を改めて気づかされました。
- ・この項目についてまとめておくとよい、など自己学習を行ううえで重要なポイントを示してくださったことがとても良く、今後の学習に役立てていけると感じました。